

令和6年度 全国学力・学習状況調査における 本校の結果分析と今後の学習指導の取組について

新宿区立淀橋第四小学校

1 全国学力・学習状況調査について

全国の小学6年生と中学3年生を対象として、学力・学習状況調査が行われました。その結果を受けて、本校児童の結果のまとめと、今後の取組をお知らせします。

2 結果の分析と今後の取組（○良かった点、△課題、→改善のための本校の取組）

実施教科	
国語	○全体の平均正答率が 72%で、全国、東京都の平均正答率を上回っている。 ○特に、学習指導要領の内容「思考力・判断力・表現力等」については、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」において、全国の平均正答率を上回っている。 ○「物語を読んで心に残ったことをまとめて書く」という記述式の問題の平均正答率が 75.4%と高く、全国、東京都の平均正答率を上回っている。また、記述式で回答する問題の無回答率が 4.9%と、全国、東京都の平均正答率と比較し、大幅に低い割合になっている。 △「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる」という問題の平均正答率が 73.8%であり、全国、東京都と比較して平均正答率を下回っている。 →日常の授業でも、ノートを自分の言葉でまとめる際に話し言葉になる傾向がある。書き言葉の文章の型を示し、学習感想や学習のまとめ等で自分が考えたことや感じたことを文章化させる。また、文章の見直し方の指導し、言葉の違いを意識できるようにする。 △「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるか」という問題の平均正答率が 44.3%で全国の平均正答率は上回っているが、東京都の平均正答率を下回っている。 →当該学年に配当されている漢字を文や文章の中で使うよう、ノート指導をこまめに行っていく。また、同音異字に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くよう指導を続ける。

算数	○全体の平均正答率が 68%と全国の平均正答率を上回っている。 ○すべての記述式の問題で、全国の平均正答率を上回ることができた。 △「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる」問題の平均正答率が 63.9%であり、全国、東京都を下回っている。 →わり算の筆算の仕方は理解しているが、除数が小さくなったときに商が大きくなるという商と除数の関係性の理解が不足している。また、数量の関係性を捉えることができるよう、「割る数が 10 分の 1 になったら商はどうなるか」など具体的に例示して規則性が理解できるように支援する。 △「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる」問題の平均正答率が 49.2%であり、全国、東京都の平均正答率を下回っている。 →示された資料から、何を答えればよいかを捉えることを苦手とする傾向がある。何をどのような道筋で求めるのかを整理するために、算数の文章題では図や絵で問題場面を表現することを授業の中で大切にしていく。
習慣や学校環境に関する 質問紙調査	○「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。」と回答している児童の割合が 88.9%と高く、全国、東京都の割合を上回っている。 ○「自分にはよいところがある。」と感じている児童の割合が 92.1%と自己を肯定的にとらえる児童の割合が、全国、東京都の割合を上回っている。 △「新聞を読んだことがある」と回答した児童の割合が 20.7%であった。約 8 割の児童が新聞を読む経験をしていない。 →情報を得ることで、世の中のことを知ったり、関心の幅を広げたりすることができることを伝え、新聞の価値を感じさせる。配布している KODOMO 新聞の読み方に触れ、学習のまとめとして活用できることを学校で教えていく。

3 結果の返却とご家庭での活用について

9 月に個人票とあわせて、問題用紙を返却しました。ぜひ、総合点だけでなく、教科別、単元別に問題と結果を照合してご覧ください。児童自身で課題を見付け、自主的な学習にも活用してください。

特に、正答率が低い単元があれば、その単元について学習した際の教科書やノート等を使って復習を行い、さらに、正答率の高かった単元については、発展的な課題に取り組むのもよいでしょう。

本校全体の児童の課題の一つとして、定着のための反復学習をとる時間の少なさが挙げられます。今回の学力調査の結果を基に、継続した家庭学習につなげてください。